



産団協さんと一緒に開発した
ふきん絞り器「しぼっ太郎」
http://ns.sandankyo.com/shi
bottaro/

まちの保健室は
2004年から現在
まで実践中です。

療養支援看護学 教授 神崎 初美(かんざき はつみ)

【担当科目】

看護学部: 成人看護学概論・慢性看護援助論・成人看護技術演習・成人看護実習Ⅱ(慢性)・看護研究セミナー

看護学研究科:

共通科目: 看護研究・看護研究演習

領域科目: 慢性看護学特論・慢性看護学援助特論・慢性看護学演習Ⅰ・慢性看護学演習Ⅱ・慢性看護学演習Ⅲ・慢性看護学特別研究・
がん看護学演習Ⅲ・がん看護学特別研究・がん看護学課題研究

【私の研究領域】私が行っている教育・研究活動は、疾病のある人のケアはもちろんですが、健康な地域住民の健康レベルをより高め、疾病を予防し、健康を維持するための実践、臨床看護師の能力向上支援などの研究です。取り扱う領域としては、成人看護(急性・慢性)・リハビリテーション看護・遠隔看護・災害看護・まちの保健室・在宅看護を含んでいます。

【私の行っている研究内容】

・テーマ: リウマチ看護師の看護実践能力の検証とセルフケア支援促進プログラムの構築(平成30~33年度 文部科研基盤研究B研究 主任研究者)

本研究では、【第1段階】で、「リウマチ看護師の看護実践能力尺度(神崎ら2017)」の反応性(病院・診療所・施設の看護師への適用可能性、自己評価だけでなく客観的評価指標としての可能性)確認、【第2段階】で、リウマチ看護師のセルフケア支援の詳細を測定できる「セルフケア支援実践能力尺度(フットケア、マウスケア、看護リハビリに関する内容)」を作成する。【第3段階】で、セルフケア支援実践能力尺度に沿った実践プログラムを構築し、評価指標を、リウマチ看護師の看護実践能力尺度・セルフケア支援実践能力尺度・セルフエフィカシー尺度・患者の身体評価とし、実践的介入研究(非介入群ありの無作為割り付け研究)を実施する予定である。

・テーマ: 病院・在宅療養を支援するリウマチ看護の質を担保するアプローチ方略の開発と促進(平成26~29年度 文部科研基盤研究B研究 主任研究者)

目的: パラダイムシフトする関節リウマチ医療に伴い、求められる看護の役割が増大するなか、その看護の質を担保するためのアプローチ方略を開発する。その後、そのアプローチ方略を全国に定着・波及させるため、先行研究で結成した「RA 看護師ネットワーク」メンバーへの教育研修を実施し、患者へのアプローチ能力を強化する。この看護師達から全国各地看護師へのTraining-of-Trainers (ToT) によるアクションプラン手法を用いて看護師達へ教育伝達し、全国の病棟・外来、さらに在宅のどの場面においても質の高い均てん化した看護提供の波及を試みる。この過程で、アプローチ方略の有効性を評価するため多施設無作為割り付け試験を実施する。

先行研究: リウマチ看護師の専門性の可視化・構造化と戦略的看護介入の確立 (平成23~25年度 文部科研 基盤研究B 主任研究者)

・テーマ: まちの保健室ナースの「看護力」で形成する急病や災害に備えられるまちづくりと効果の検証(平成24~27年度 文部科研挑戦的萌芽研究 主任研究者)

目的: 人々の体調管理・生活環境の調整とその意志決定を支援し得る訓練された「災害支援ナース」と「まちの保健室ナース」により、急病・災害時に備え対処できる個人と地域コミュニティを形成しその効果を検証し、そのモデル化と波及を目的とする。

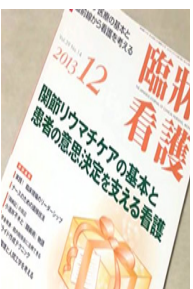
先行研究: 災害時の避難所ケアとまちの保健室を融合した育成支援システムの構築 (平成 21~23年度 文部科研 挑戦的萌芽研究 主任研究者)

行っている活動



日本臨床リウマチ学会でパネル
ディスカッションを企画(2013.11)

日本リウマチ看護研究会の
代表をしています。



執筆した本です。左と中央は、リウマチ医療関連で、日頃一緒に実践している医師や看護師をはじめ多職種の方々に協力いただき執筆しました。患者様にも好評です。右は、災害支援と災害看護教育をしてきた実績から執筆したものです。一般の方々にも読んでもらえる内容です。



2011.3.11に起こった
東日本大震災の8日後に松
島町の避難所で看護してい
る私です
災害看護も私のスペシャリ
ティの一つです。



2011.3.11に起こった東日本大震
災の際に兵庫県看護協会の先遣
隊として災害9日後に仙台市の避
難所を訪れました。
被災され救出されたNsがそのま
ま避難住民さんを看護されている
現状をお聞きしているところで